

本鉦山をGPSであるガーミンを手にして、何回か訪問した。測地した経路を本稿で公開する。既報の報告では、現地への経路が明示されていなかった。本稿のガーミンによる探查経路を参考にすれば、比較的容易に現地を訪問できるようになると思う。その際、本稿に添付した鉦山図などがきつと役に立つと思う。特に、本鉦山訪問のための最良の資料は図4として添付している「今出山金山マップ」と思う。未知鉦山探查は草木の枯れ落ちた時期、晩秋から春の期間が良い、見晴らしが良くなるので。草木の生い茂った時期では、一帯が草木で覆われて、数m先にある跡さえ見逃すことがある。が、季節にとらわれない確かな指南書があれば、現地の初心者でも不安なく訪問をすることができよう。本稿がその一助になることを希望している。

今回もそうであるが、金鉱石の標本の採集はできていない。ズリなどにじっくり腰を下ろして採集を行えば良いのであるが、今回も坑口跡の確認に追われていたので、採集の時間を割けなかった。標本の採集は今後に期待している。

甫嶺側經由のA-Bで鉱山跡の下部へ行く経路の詳細は、既報に詳しいので、それを参考にする
と良い。D-C-Eで鉱山跡の上部へ行く経路の詳細も既報に詳しい。

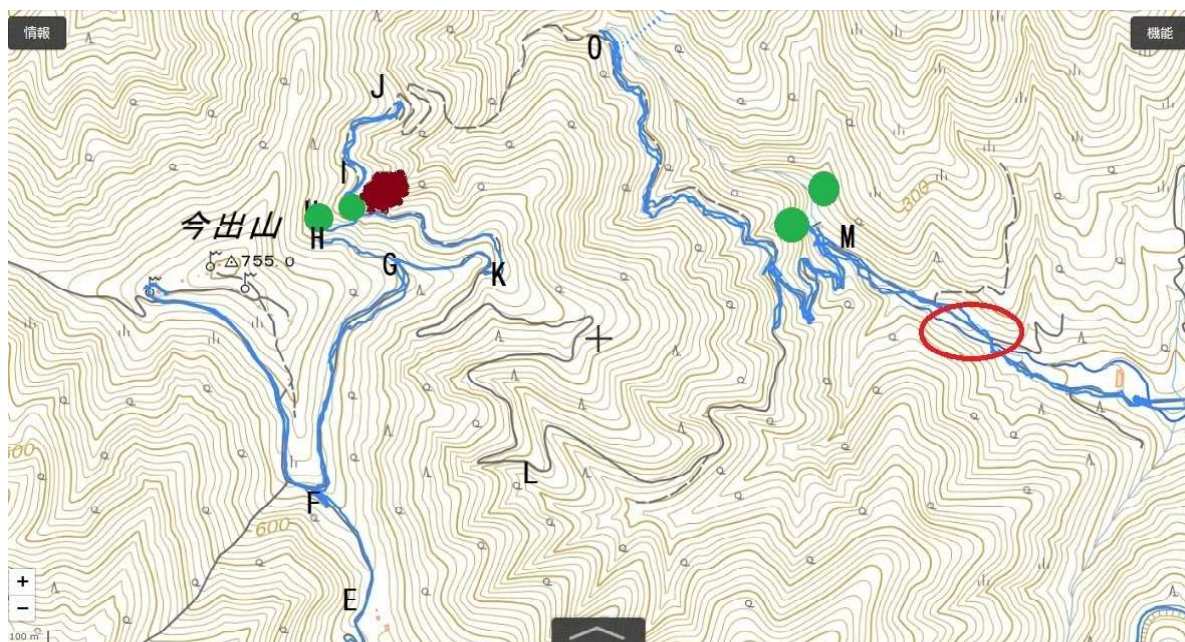
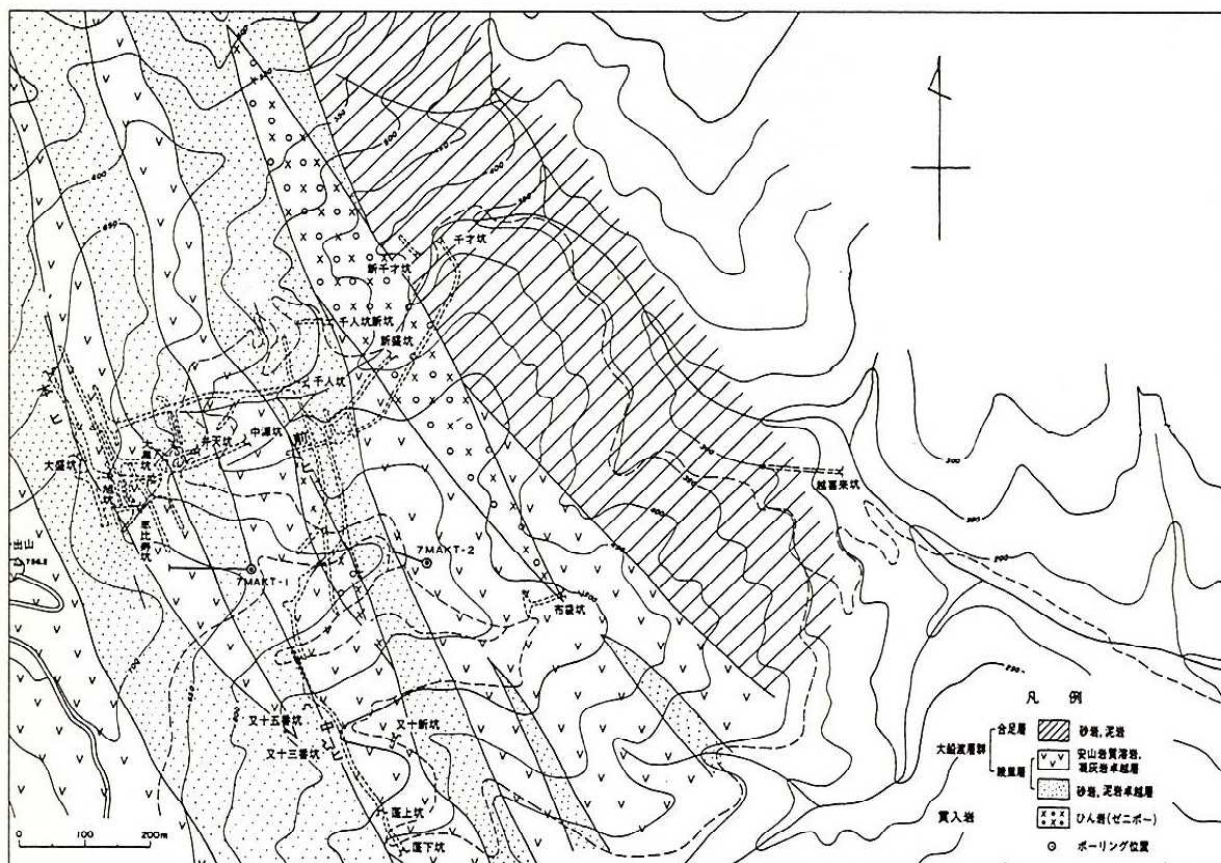
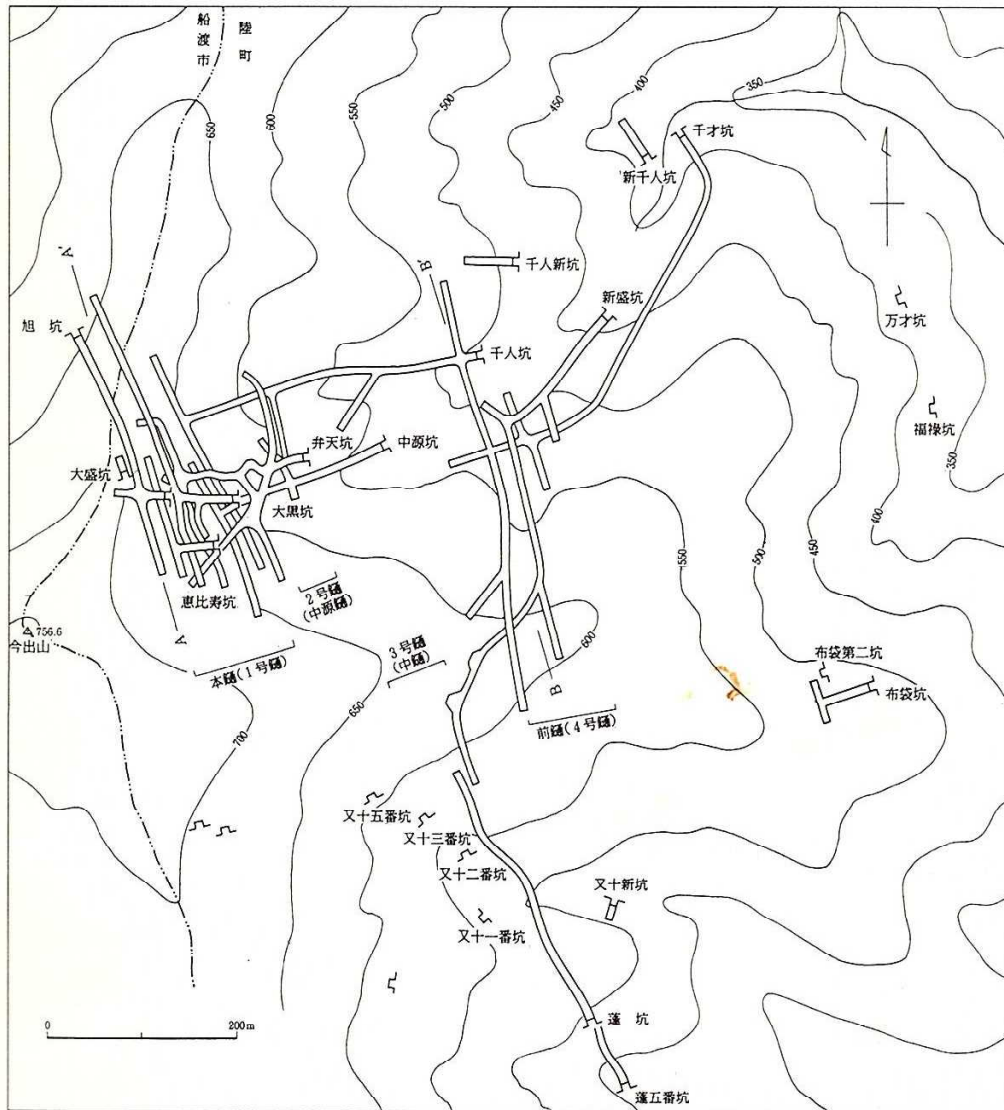


図2 図1の部分拡大図。C-E-Fはダートの林道である。Eには山小屋があり、広い原っぱが付属している。駐車自由であり、山小屋も無料である。この山小屋は50年以上昔からあった。手入れもされており、現在でも現役である。現地の山グループに感謝である。ここに車を駐車し、徒歩で、E-F-Gと進んで行くと、H、Iのあたりにプラト一部があり、山側に潰れた坑口跡らしいのがある。黄緑丸がそれである。なを、G-H間には林道はない。林の中をショートカットしたルートである。Iの下には大きなズリ斜面がある、既報の「追記」の写真3の通りである。他の坑口跡を探して確り残っている林道をJ当たりまで進んだが、何も確認できず、戻る。他日にMからOへと林道を歩いて探査したが、林道沿いに鉱山跡らしい所は確認できず、O点から引き返した。また、他日、K-LとL点まで林道を下ったが、このコースでも鉱山跡を確認できなかった。



第12図 鉱床付近地質図(金属事業団, 1996)

図3 参考文献(1)より。ディスプレイ画面では文字などが潰れて表示されているが、拡大すれば、より精細に文字などが見れよう。記載年度が1996年。後掲の図4は1953年。これら2つを見比べると、図4が図3のデータベースになったようである。従って、図4の方がより正確に坑口跡を確認できる。この図をよく見ると、図2中の林道F-G-K-I-J、K-L-Mの経路が破線で書き込まれている!! 次回以降この図を拡大して持参しよう。図2と図3の倍率を調整して、図をうまい具合に重ね合わせて見れば、より結構な資料となろう。



第13図 坑内外関係図(鉱山資料, 1953より作成)

図4 参考文献(1)より。今出山金山の坑口などが、一目瞭然と分かる関係図である。図2中で黄緑丸で示した坑口跡(?)は「大黒坑」と「弁天坑」と判断したが、少し不安。他の坑口跡が確認できれば、より確かなものとなろう。後掲の図4と比較すると良い。

鉾山跡写真



写真1 峠のC点の所である。立派な林道であることが視認できよう。前方は甫嶺へ下っていく。左折すると今出山頂上へ。直ぐダートとなる。



写真2 E点の所にある山小屋。周りは高原の原っぱである。気がつかなかったが、この写真を見ると電柱が立っている。電気が使用できるのかも。



写真3 山小屋から盛方面を見下ろす。中央遠方の少し尖っているのが「氷上山」。その中腹には「玉山金山」跡がある。



写真4 Iの所である。右側に石垣が見える。石垣の先に坑口があったかも知れない。

参考文献

- (1)「新岩手県鉾山誌」、高橋、南部著、東北大学出版、2003年。
- (2)「黄金の在所と行方 気仙地方とその周辺の産金遺跡」、産金遺跡研究会、2011年、大船渡市立図書館にて閲覧。

(29) 今出山金山(いまでやま)跡

参考文献(1)は岩手県の鉾山についての解説書である。非常に詳細に各鉾山の歴史が記述され、鉾床地質図、坑内外関係図も紹介されている。この文献で紹介されている今出山金山は、著者の故郷の裏山である今出山にある。著者が子供の時に、今出山に金山があったと言うことは聞いていた。それらしい場所を見たことがあったが、当時殆ど興味がなかった。最近まで忘れていた。廃鉾山に興味を持ち始めた去年の夏に帰省した折、大船渡図書館で参考文献(1)を閲覧することができた。今出山金山の頁を複写し、帰省を終了した。その時は何の探査用の道具も持っていなかったからである。秋になり栃木近郊の廃鉾山などの探査をゼロからやり始めた。そして、年末に帰省したなら、是非今出山金山を探査することにした。

地形図中の左真ん中に今出山がある。その右側に多数の赤印を記している。参考文献(1)に記載されていた今出山金山の坑口の位置を書き写したものである。2枚目の地形図はその付近の拡大版である。通常、今出山金山に行くには、国道45号線を越喜来で降り、甫嶺(フリガナは「ほれい」となっているが、地元の発音は「ほれ」である)地区に向かって、三陸海岸を左に見て南下する。東上甫嶺で甫嶺川に沿って西方向に進んでいく。林道を進んでいくと、林道脇に「今出山金山 事務所跡」(写真)、「今出山金山 映画館跡」(写真)の掲示標が立っている。林道を更に登っていくと、前方に砂防ダム(地形図中に記載されている)が現れ、林道が大きく左に曲がっている箇所にとどろく。ここに車を駐車して、探査の開始である。鉾山写真で示している坑口跡は、沢下から砂防ダムに向かっている左上方にあったものである。地形図中の一番右側の赤印の位置である。文献(1)より越喜来坑と判断した。ここから上の方の林道に登り上がり、林道を先に進んでいったが、途中で林道が消えてしまった。ここまで車で登り詰めることもできる幅のある林道であったが、なのに突然林道が途絶しているのである。地形図中には波線で林道がしっかりと先までも記載されているのであるが？

どうなっているのだろうか？ この地点の位置を正確に確定しようと、持参していたGPSの電源を入れたが、回りの木々が邪魔となり、測地できなかった。日も傾いてきたので、時間切れとし、甫嶺川からの探査はこれで切り上げた。

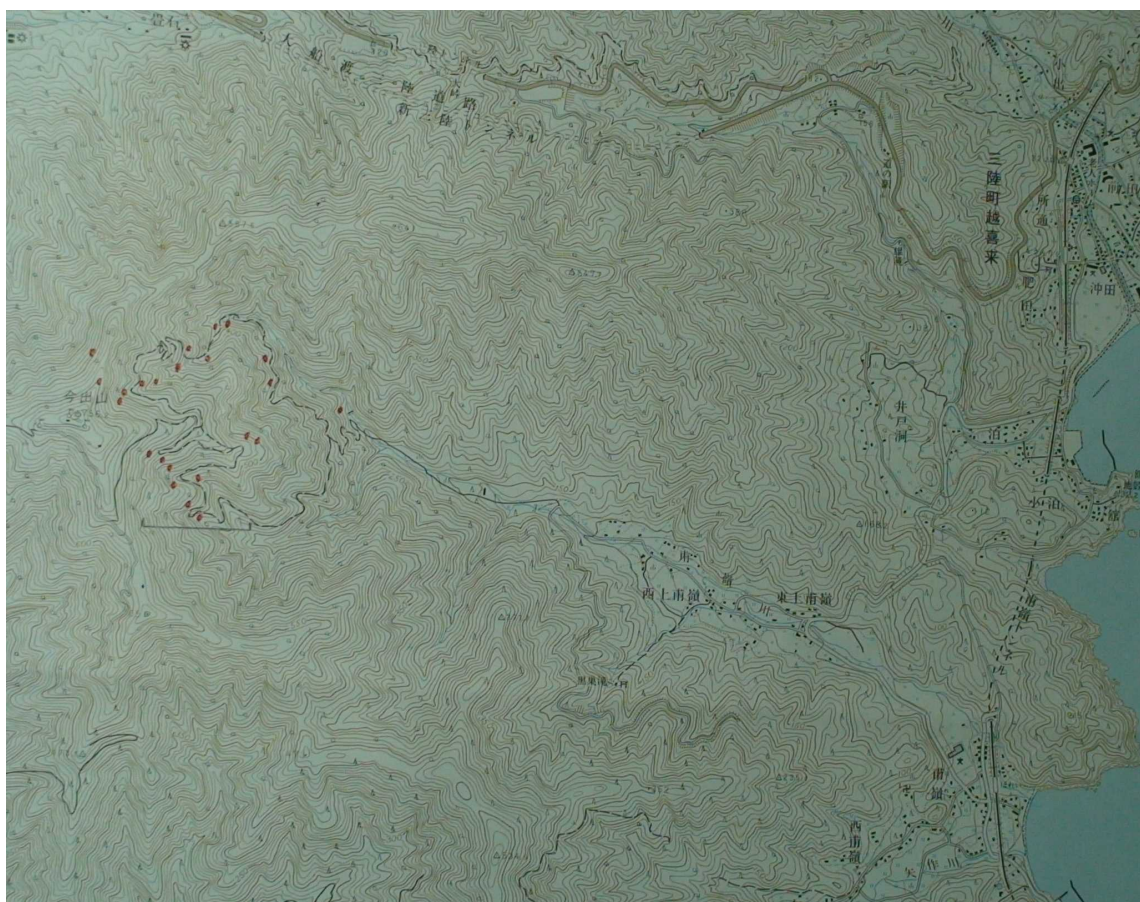
地形図中の多数の坑口の位置を見ると、今出山の頂上に近いことがわかる。今出山の頂上には沢山のテレビ中継所があり、現在でも自由に、頂上まで車で登り上がることができる。この林道は中継基地の保守のこともありしっかりと整備されている。示している地形図は昭和42年測量のものであるが、気をつけて地形図を見ると、何故かこの林道の中途が消えてしまっている。当時でも、車で頂上に行けたのである。どうも、書き込み忘れのようである。今出山頂上への林道を「今出山林道」と呼称しよう。今出山の頂上へは、次のような経路がよい。45号線を北上してきたならば、盛川に架かっている盛川大橋を渡り、鉄橋を通過して直ぐを右折する。赤崎、綾里地区方向へと進んでいく。猪川小、大船渡高を左に見て、45号を右折してから1km弱で左折する。道ばたに今出山への指導標があるかも知れない。ここから途中までは村落内を進むことになるが、ここから今出山林道となる。なを、左折に失敗して行き過ぎると、左側に山が迫って来、その内にセメント工場内に入っていくようになる。普通車でも登り切れるであろうが、豪雨の跡では道が食われている場合もあるので、4WDの方が確実であろう。左折してから、30分前後で頂上までたどり着けよう。頂上からの眺めを写真で示している。拡大した地形図を手引きに頂上から林の中を下り、各坑口を探査するのもよい。或いは、林道を登ってきて、標高650m当りの林道右側にある「千人坑殉難者・・・」の石碑(写真)当りにある林道から坑口を目指す方法もある。この林道は地形図中に記載されている。標高650mの所の林道から、実線で引かれた細い林道が稜線の右側を北に延びている分岐した林道である。

2回目の今出山金山の探査は、著者が帰省した正月に行った。1日目は甫嶺側から探査し、その内容は前述した。2日目は頂上まで車で行った。下界には雪はなく。見上げた今出山にも雪が見えなかった。が、やはり、季節は冬である。山の林の中に入ってみると、一面雪があった。早々に諦めて下山した。

夏は草木が生い茂っている。山中での見晴らしが一番悪い時期であり、草が生い茂って地面もよく探せない。勝手知ったる鉾山跡ならば、それほどの問題ではないが、未知の廃鉾山の探査は草木の生い茂っている時期は難しい。落葉し、草木が枯れている時期が、未知の鉾山探査には一番好都合な時期である。冬が一番よいのであるが、積雪があると、やはり難しい。木々が落葉し、積雪のない時が未知鉾山探査には最良の時期である。現場の全体状況が把握できていれば、生い茂った夏の草木はそれほどの障害とはならない。

紹介している地形図中には全く記載されていないが、今出山林道の途中から、甫嶺川の上流に通じる林道が既に開削されている。従って、最初から今出山林道に入り、この林道から甫嶺川上流に行くことも可となっている。

既刊の鉾山探査記は大事な案内書である。同じくらい国土地理院発行の地形図も探査の重要な資料である。が、書店で購入できる地形図は、製作年度が古い場合がある。国土地理院ではホームページで最新の地形図を無償で公開している。試しに、地形図「越喜来」を閲覧したら、今出山林道も、そこから甫嶺川へ通じる林道もしっかりと記載されていた。Yahooで地図を閲覧するのもよいであろう。未知鉾山探査は1回切りとしないで、余裕を持って何度か探査をした方が良さそうである。



上の部分拡大

地図 国土地理院地形図 2 万 5 千分の 1 地形図「越喜来」
 調査日 2 0 0 9 年 1 月

参考文献

(1)「新岩手県鉱山誌」、高橋、南部著、東北大学出版、2 0 0 3 年。

鉾山跡写真



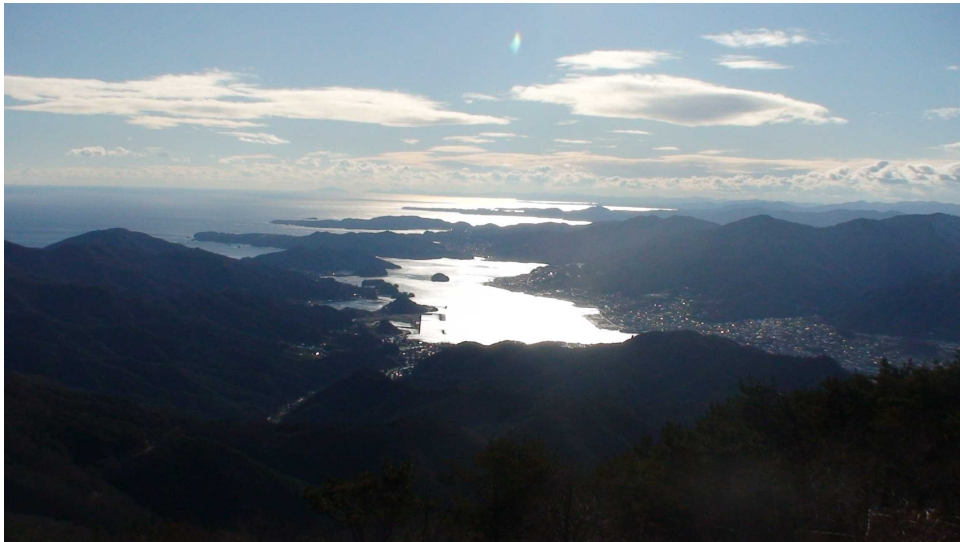
事務所跡の揭示標



この鉾山には映画館もあった、とは驚きである。



坑口の1つ。越喜来坑であろう。拡大地形図中の右端の赤丸。



今出山頂上から南方方向の眺め。大船渡湾が光っている。水平線の真ん中より少し左の雲の下に金華山が辛くも見える。撮影者の背後には、五葉山。



「千人坑殉難者・・・」の石碑。この千人坑については、著者が子供のころに聞かされた黄金伝説がある。

採集鉱物写真

採集物は未だなし。次回（何時になるかわわからないが）以降に、気を入れて探してみよう。

追記

田舎に帰省の折、本今出山金山の再探査を2回行った。

(1) 前回と比べると、甫嶺川に沿った林道は、途中から荒廃していた。特に、前回車で登り上がることができた最上流の砂防ダムの手間での橋（木造か？）は朽ちて穴が開いており、通過は危険である。この橋の手前までオフロード車ならば、登っていけようが、林道途中の漁具整理所（？）あたりで、車を降りて徒歩とした方がよいであろう。砂防ダムの少し上流、左側にある越喜来坑には、今でも容易にたどり着ける。今回、砂防ダムの少し上流、沢水準の右側に坑口跡を見つけた。

(2) 今出山の頂上手前まで車で登り上がった。千人坑碑の先に、地形図からわかるように、頂上に至る主林道から分岐した林道が書き込まれている。この林道はりっぱに生きており、徒歩で進んだ。林道の先に広い広場があり、林道は大きくUターンして下っている。なを、この広場までは、車でこれよう。そうすれば、訪問は少し楽になる。今回、この広場から、等高線に沿って林の中を、北の方向へ、有るか無いかの山道を進み、広いプラトー部にたどり着いた。その下には、大きなズリ跡も見つけた。プラトー部には潰れて隠れている坑口跡らしい箇所も見つけた。

(3) 今回までに、図1に示すとおり3カ所の坑口跡しか確認していない。今出山頂上から北西方向の沢に沿って、多数の坑口があったはずである。次回以降これらの探査を行い、良い標本も採集したい。

探査日 2013年8月

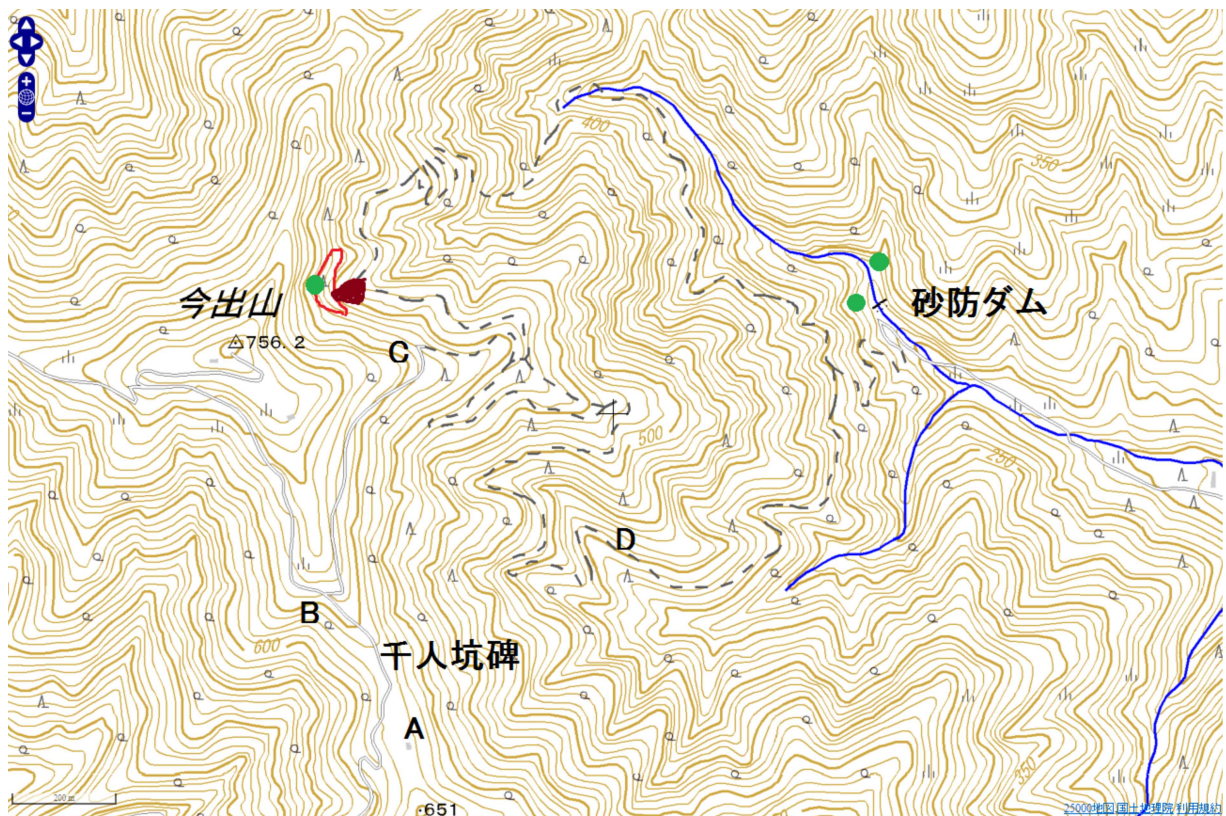


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。A点には、広い広場と山小屋がある。素泊まり可。B点で、右側への側道がある。C点までは、車で行けそう。C点に広場がある。C点で等高線気味に北方向進んだ。赤線で囲った広いプラトー部があった。その下部に大きなズリもあった。茶色ベタで示している。プラトー部の山側に、殆ど埋没している坑口跡らしい痕跡があった。黄緑丸で示しているが、確かではない。D点当たりまで林道を下ったが、何の痕跡も見つけれなかった。甫嶺川にある砂防ダムの所には、地形図では、ダム記号ではなく、滝の記号が記されている。ということは滝のあった所にダムを建設したようである。

鉱山跡写真



写真1 甫嶺川に沿って村道を進む分岐点にかかっていた、今出山金山跡の観光案内板。



写真2 千人坑碑の裏面。昭和13年（1938年）に建立したことが記されている。この碑のことを、地元では「サブ塚」と呼んでいる。伝説の主人公の名前である。

サブ伝説 サブという若者がこの金山で働いていた。ある時、ベーゴ金（ベーゴとは気仙語で牛のこと。従って、大きな金塊を意味している）が坑内で発見された。それを祝って、全員集まり、坑内で祝宴が催された。宴も最高潮の頃、サブには、亡くなったはずの母親が、「サバー、サバー、・・・」と、外から呼ぶ声がしたような気がした。気になって、サブが坑口から外へ出た。そのとたん、坑が落盤した。ただ一人サブだけが助かった。というお話。著者は、小さい時から聞いていたが、いつの時代のことかはわからない。



写真3 広いプラト一部の下の急斜面にあった大きなズリ。このズリは、2013年8月のG o o g l e E a r t hで、現地は雪で埋もれている時の写真であるが、上空から確認できそう。



写真4 広いプラト一部の山側にあった坑口跡らしい箇所。

採集鉱物写真

特になし。

参考文献